

に考える機会や仲間作りの場を提供している。NPでは週1回、全6回以上のプログラムを行うよう規定されているが、当院では参加希望者が多いなどの理由から、全3回のプログラムを実施している。

ママサロンでは過去4回、NPの規定に則った6回コースを実施しているが、3回コースと比べて参加者同士の結びつきが強いような印象を受けた。そこで、ママサロンの実施回数について検討するため、3回コースと6回コースの参加者にアンケート調査を行った。

## II. 研究方法

研究対象は、ママサロン3回コース参加者(59名)および6回コース参加者(29名)とし、無記名のアンケートを3回コースではママサロン終了時に配布、6回コースでは郵送した。

## III. 結果および考察

両コースともに参加者のほとんどが「参加してよかった」「仲良くなれた」「相談相手ができたと」答えており、ママサロンの満足度は高く、子育ての仲間作りの場として効果的であるといえる。

さらに、両コースとも語り合いの回から仲良くなれたという参加者が多く、語り合いの回が多い6回コースの方がより親密さが増したのだと考えられる。

参加後に地域の子育て支援センターなどを活用しようと思った参加者の割合は3回コースの方が高かったが、その理由から、ママサロンでの仲間作りや語り合いに物足りなさを感じていると考えられる。

参加後の子育てに関する考えの変化について、「変わった」と答えた参加者が6回コースの方が多く、その内容から、「みんな一緒」に悩みながら子育てをしているという安心感や「これでいい」と自分の子育てに対し自信をもてるようになったことが明らかになった。このことから、NPの理念は6回コースの方がより浸透したと考えられる。

## IV. 結論

1. NPのプログラムを最大限活かすためには、6回コースの開催が望ましい。
2. 会場の確保やスタッフの人数などを考慮し、今後ママサロンの実施回数を増やしていけるよう、さらに検討していきたい。

# 高齢者の下痢に伴う臀部のスキントラブルに対する撥水剤の有効性の検討

5-2病棟 池上 絢美

回対象患者に実施後、スキントラブルが起こりにくいことが示唆されたため結果を報告する。

## I. はじめに

高齢者の皮膚は保湿・弾力性が低下している。オムツを使用するとオムツ内の皮膚が高温多湿の環境に置かれ皮膚のバリア機能が障害されやすい状態にある。日常の臨床の場ではこのような要介護高齢者に泥状あるいは液状に近い便(以下下痢)が始まったことに起因して臀部に発赤や皮膚剥離(以下スキントラブル)を起してしまっている場面を度々見ることがあった。そこで下痢を起こしたオムツ装着者の高齢者に、市販されているワセリンを含有した撥水性の高いゼリー状のクリーム(以下セキュラPO)を塗布し、臀部のスキントラブルが予防可能か明らかにしたいと考えた。今

## II. 目的

高齢者のオムツ装着患者が下痢の際、セキュラPOにより臀部のスキントラブルを予防できるかを検証する。

## III. 方法

1. 対象者:オムツを使用している要介護4から5以上の高齢者で入院中下痢が始まった患者
2. 対象人数:7名

3. 実施期間：H 21.10.25～H 22. 9 .17

#### 4. 実施方法

- 1) 1日1回午前中に陰部洗浄を施行後、対象者にセキューラPOを肛門周囲から臀部全体に5g塗布する。
- 2) セキューラPOを塗布した後は、機会的刺激による皮膚への刺激を避けるため、原則として陰部洗浄は1日1回までとし、排便時はおしり拭きで拭き取りを施行。やむを得ず陰部洗浄を施行した場合は、再度セキューラPOを塗布した。
- 3) 翌日の午前中に臀部の発赤の有無を確認し、発赤の部位・程度を自作の評価表に記入した。実施期間中の便の形状の変化を知るために、ブリストル便形状スケール（便の硬さを7段階に分類したスケール）を使用し、オムツ交換時に排便状況を確認し評価表に記入した。
- 4) 1週間施行。
- 5) 1週間施行後、記入された評価表を回収し結果を分析した。

#### 5. 倫理的配慮

本研究は病院内の倫理委員会で倫理審査の承認を受けて実施した。患者の個人情報と保護し、不利益が生じないように患者及び家族に口頭・紙面で研究目的・内容について説明し、研究結果の公表についても同意書を得て施行した。また実施病棟の病棟会議でスタッフに研究の主旨を説明し協力を得て実施した。

#### IV. 結 果

対象者7例中、下痢が始まった後セキューラPOを塗布して臀部の発赤が起こらなかった例は5例。発赤が起こった例は2例であった。臀部の発赤が起こらなかった5症例のうち4症例は、セキューラPOを塗布してから実施期間中に下痢便の排便が止まっていた。残り1症例はセキューラPO塗布後も1週間下痢が続いた。臀部の発赤が起こった2症例中、1例は実施期間中も1週間下痢が続いた。もう1例は、実施期間中に下痢が止まったが発赤は改善しなかった。

対象者は男性3人（43%）、女性4人（57%）。年齢平均は79±18歳。日常生活自立度はC1・1人（14%）、C2・6人（86%）であった。研究対象者の傾向として基礎疾患に脳神経疾患を持っている患者が5例。食事形態に経管栄養を選択している例が4例あった。

#### V. 考 察

セキューラPOは、撥水作用により排泄物による皮膚への接触を予防する効果がある。そのため、今回、下痢が始まったばかりの対象者の臀部にセキューラPOを塗布した後、臀部の発赤がなかった例が多かったことから、臀部のスキントラブルの予防に効果があると考えられる。しかし、セキューラPO塗布後も皮膚の発赤があった例より、予防に一定の効果は得られるものの、確実な予防ができるわけではなく、使用中は十分な皮膚の観察が必要であり、発赤が出現した場合は使用を中断し医師の診察をうけ、発赤が改善できる薬剤への変更を検討していく必要があると考えられる。

#### VI. 結 論

高齢者のオムツ装着者には、下痢が始まった早い時期から撥水性クリームを塗布することで臀部のスキントラブルの予防効果を高められる。

#### 参考文献

- 1) 谷口由美子ほか。撥水性皮膚保護剤の褥瘡予防に対する有効性の検証。ナーシング 2005; 25(14): 124-129.
- 2) 梶井文子ほか。尿・便失禁のある要介護者における皮膚保護洗浄剤を用いた予防的臀部スキンケアプロトコルの開発。聖路加看護大紀 2005; 31: 26-35.
- 3) 武田宏司。IBSの診断基準とガイドライン。日医師会誌 2009; 137(10): IBS-1-IBS-4